令和6年度 近畿大学附属高等学校・中学校 学校評価

1. めざす学校像

・校訓「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人になろう」に基づき、「相互敬愛・思い遣り」の心を育成する

2. 中期的目標

- (1) 近畿大学への進学
 - ① 近畿大学の教育内容に係る理解の深化
 - ② 柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学

(2) 生徒育成の徹底

- ① 挨拶・礼儀の重視
- ② 自律して考え・判断し・行動できる生徒の育成
- ③ 各個人の権利の尊重、思い遣りの心・平等の心の育成
- ④ 学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性の伸長、相互の友情と連帯感の深化、自己肯定感の醸成
- ⑤ 生徒会および各種委員会活動の活性化
- ⑥ 愛校心の育成

(3) 学習指導の徹底

- ① 授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める
- ② 校内の全ての教育活動は、生徒が自立した学習者およびグローバル人材となるべく、何が生徒のためになるかを第一に考えて実施する
- ③ ICTを利活用した教育力のスキルアップを常に目指し、未来を視野に入れて教育計画を立て、常に新鮮で創造的なアイデアを生み出すために多様な人材 と協働して問題解決をはかる
- ④ 社会貢献マインドを持ったグローバル人材を育成するため、IB ディプロマプログラムの導入年次にあたり教職員全員の共通理解のもと取り組む
- ⑤ 学習過程の評価重視に係る検討・実践・観点別評価の研究・実践

(4) 進路指導の徹底

- ① 「大学附属校としての教育」がより充実したものになるよう検討を重ねるとともに、有為な人材が一人でも多く近畿大学に進学できるようにする 【上記(1)に記載】
- ② 特進クラスに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う
- ③ 各群・各学年・各教科担当者との連携を強化する
- ④ 生徒が大学進学後も意欲的に学びを継続できるよう適切な学部・学科を主体的に選択させる

(5) 健全な経営状況の維持

- ① 事業活動収支差額の安定的な黒字化
- ② 受験者数の確保と定員の充足

[以上(1)から(4)の目標を群別・学年制のもと、それぞれが連携しつつ、特色のある教育を展開する]

3. 令和6年度の取組み内容および自己評価

3. 令和	16年度の取組み内	容および自己評価		
中期的	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
目標				
(1)	①近畿大学の教育	①a)近畿大学各学部の特長・内	①a)単なる学部説明に終始しない工	①a)理工学部、法学部、薬学部、経営学部、文芸学部、総合社会学部、農学部、経済
近畿大	内容に係る理解	容の理解[高校]	夫	学部、生物理工学部、建築学部、国際学部、情報学部で学部・学科説明の他、模
学への	の深化	b)近畿大学オープンキャンパ	b)高校 1 年全生徒の参加	擬講義を実施し、生徒の興味・関心を喚起した(延べ1818名の参加:満足した旨
進学	②柔軟な思考と学	スへの参加[高校]	c)近畿大学学園各施設を活用した	の回答 92%)【オンラインまたは対面での実施】→次年度も継続して実施する
	び方を身につけ	c)各コースの進路目標にあわ	各コースにあった見学会・体験	b) 8月24日に実施・参加[930名参加] (第1学年全生徒の参加:満足した旨の回答
	た社会に貢献で	せた近畿大学各施設を用い	実習の実施	90%)→次年度も第1学年全生徒の参加とする
	きる自立した学	た見学会・体験実習の実施	②a1)自らのキャリアデザインを1年	c)近畿大学各施設に於いて年間計画に基づき実施→次年度も継続して実施する
	習者の育成と近	[中高]	次に 2000 字論文、2年次に計	・農学部「2023 集まれ、アグリ村」に於ける計 12 回の農学部講師陣による講義
	畿大学への進学	②a)コミュニケーション力・発	5000字論文に著し、3年次に卒	を受講(全学年希望者対象)[高校] → オンライン実施
		信力・主体性の育成[高校]	業論文 8000 字以上を完成	・文芸学部「感性学入門」講座に於ける計3回の文芸学部文化デザイン学科講師
		b)平素の授業を通じての基礎	a2)iPad を利活用した工夫、コミュ	
		 学力の定着[高校]	ニケーション力・発進力・主体性	面実施
		c)年間計画に基づく上記①お	養成プログラムを実施	・生物理工学部現地見学・説明会(希望者対象)[高校]→8 月 29 日に現地で対面実
		よび②(a)(b)の実施[高校]	b)各科目定期試験に於いて一定点	施
		3.0 (((() ()) () (() () () ()	数以上(素点+形成評価点)	・近畿大学奈良病院見学[中学医薬コース1年] → 6 月 11 日実施(満足度 97.0%)
			c)年間計画の実施と進学率	・医学部見学・体験実習[中学医薬コース2年・4年] → 7月12日・7月26日
			07 NJ M C C T	実施(満足度 100%)
				・近畿大学奈良病院での看護体験実習[中学医薬コース3年] → 7 月 16 日実施
				(満足度 100%)
				・薬学部見学実習[中学医薬コース 1 年] → 3 月 5 日実施(満足度 91.0%)
				・薬学部薬用植物園見学[中学医薬コース 2 年] → 4 月 25 日に実施(満足度 100%)
				・湯浅農場農業体験通年プログラム[中学全コース 2 年] 5月8日・7月10日・
				3月7日に実施(満足度 100%)
				・農学部奈良キャンパス体験学習[中学全コース1年] 6月15日に実施(満足度
				97.,9%)
				・南紀体験学習(水産研究所に於ける学習を含む)[中学2年・3年希望者] 7月23
				日~25 日に実施(満足度 95.0%)
				・理工学部夢サイエンス[中学 3 年希望者] 8 月 28 日に実施(満足度 100%)
				・原子力研究所見学[中学 2 年希望者] 7月8日に実施(満足度 100%)
				・生物理工学部実験実習[中学全コース 1 年] 9月3日に実施(満足度 99.2%)
				・理工学部実験実習[中学英数コースアドバンスト1年] 3月12日に実施(満足
				度 85%)
				・近畿大学英語村での E-Challenge 体験学習[中高全学年希望者] 3月および8
				~9月の期間に実施(満足度 100%)
				②a1)1年次にテンプレート3ステップを活用した2000字論文を完成(進学コース・
				6ヵ年課程英数コースプログレス生徒)、2年次にテンプレートを活用した5000字
				論文を完成(進学コース・6ヵ年課程英数プログレスコース生徒)→卒業論文 8,000
				~10,000 字の完成・提出 655 名)→次年度も継続して実施する
				a2-1)iPad を用いたクラス別プレゼンテーションの実施(進学コース1年および6
				ヵ年課程英数コースプログレス1年[4月]→次年度も継続実施する
				a2-2)計画通り5月から原則として週1回「KINDAI LEADERS 研修」を開催、
				『地方創成』について問題解決型学習方式を導入の上、生徒が主体的に学習。
				東大阪地域の課題を抱えている企業の、問題解決型商品開発プログラムにオン
				ライン・対面で取り組んだ。(大いに役立った旨の回答 100%)
				b)各科目一定点数未満者(素点+形成評価点)→補習・再試験による指導
				→ 次年度も継続実施する
				c)近畿大学への現役進学率[対卒業生数]61.0%【令和5年度に比して-1.7%】
(2)	①挨拶・礼儀の重視	①a)朝の挨拶指導の徹底・ [中	①a)朝の登校指導の実施 [中高]	①a)自発的に挨拶できる習慣が定着した[中高]
生徒育	②自律して考え・判	高]週番の活動による挨拶	b)2 ヶ月毎の生活目標を校内の	b)学校の教育目標の実現に大きく寄与[中高]
成の徹	断し・行動できる	運動[中]	様々な場所に掲示し、全校生徒	
底	生徒の育成	b)2 ヶ月毎の生活目標を設定	が一つの共通目標を目指して学	により、学校と家庭の双方から遅刻生徒への支援の働きかけが実現した。[高]
	③各個人の権利の	[高]	校生活を充実させる[高]	b)登下校強化地点の登校指導を実施することにより、生徒一人ひとりがマナーを意
	尊重、思い遣りの	②a)登校予鈴時刻までの着席と	②a)予鈴 8 時 25 分段階での担任教員	識し実践する習慣を身につけることができた[中高]
	心・平等の心の育	遅刻時の入室手続きの徹底	による着席確認と遅刻情報を家	
	成	[中高]	庭と共有[中高]	④a1)iPad 等を活用した情報収集と、クラスまたはコースの目的に沿った校外学習内
	④学校行事・課外活	b)登下校時の通学路に於ける	b)登下校時に於ける指導強化地点	容を設定・実施できた[高]
	動を通じ自主性・	周囲への心配りとマナー	での登下校指導[中高]	a2)文化クラブの発表会・有志によるダンスやバンドなどのパフォーマンスを披露・
	自発性の伸長、相	指導の徹底[中高]	③年間計画に基づく毎学期、学年毎	学級では趣向を凝らしたアトラクションや特色ある模擬店を出展し、数々の力
	互の友情と連帯	③人権教育室と連携強化し、年	の人権(権利・平等など)に関す	作・力演が発表された[高]

		Г		
	感の深化、自己肯	間計画に基づく人権教育室	るワークシートを用いた課題の	【実施後の生徒アンケートの満足度 84.1%】[高]
	定感の育成	発信のワークシートによる	活用[中高]	b) 年間を通じ教科学習とクラブ活動との両立を実践。また、各クラブ員による挨拶
	⑤生徒会および各	ホームルームの実施[中高]	④a1)生徒による校外学習の計画立案	の率先励行と各種学校行事に於ける率先行動が随所に見られた[中高]
	種委員会活動の	④ a1)クラスまたはコース単位	と実施[高]	⑤a)生徒会は様々な校内のコミュニケーションを経て、自校のことを調べ発信してい
	活性化	での校外学習の実施[高]	a2)生徒会が主となって近高祭が	くことにより、主体的な学びと連帯感の深化が見られた。そしてなにより、他の
	⑥愛校心の育成	a2)生徒会および文化委員会	文化的かつ全校生徒が思い出深	生徒が自分の学校のことをより良く知る機会となり、自校教育の深い学びへと繋
		による近高祭(文化祭)の立	い行事となるよう企画と振り返	がった[高]
		案と実践[高]	り[高]	b)生徒会が全校生徒対象に様々なアンケートを行い、集計を分析することで、より
		b)教科学習とクラブ活動の両	b)教科学習とクラブ活動の両立お	良い学校環境の拡充に向けて話し合うことができた[高]
		立および自ら考え率先し	よび自ら考え率先して行動する	⑥a)本校に対するお褒めの言葉については、集会などで生徒を褒め称えて自己肯定感
		て行動する指導の徹底[中	指導の実践[中高]	へと繋がった。また、苦情などについては、学年集会、HR 活動、サイバーキャ
		高]	⑤ a)生徒会執行部による朝の挨拶	ンパスを通じて、生徒への問題の投げかけ・注意・支援行うことにより、一人ひ
		⑤ a)生徒会による挨拶運動・	運動や校内の活動を取材し、そ	とりが大規模校に通う生徒としての自覚を持つきっかけとなった。但し、雨天時
		SNS を利用した学校活動	の内容を SNS などを使って情報	学校周辺地域に於ける保護者による生徒送迎車両駐車に対する苦情について引
		の紹介[中高]	発信[中高]	き続き対策を講じる必要性あり[中高]
		b)校則の見直し[高]	b)生徒・教員・保護者へのアンケー	b)年間計画のとおり実施し、自校教育の実現が見られた[中高]
		⑥a)通学圏地域に愛される学校	トを実施し、学校長へ校則の見	
		作り[中高]	直し要望書の提出。生徒と教員	
		b)自校教育推進[中高]	の話し合いの場を設置[高]	
			⑥a)本校に対するお礼や苦言など	
			様々なご意見について、学校全	
			体で組織的に向き合い、更なる	
			成長を目指す[中高]	
			b)クラスグループ毎、年間計画によ	
			る指導[中高]	
(3)	①授業の質を高め、	①a)iPadの利活用による新しい	①a)下記③の(a)を指標	① a)下記③の(a1)~(a4)のとおり
学習指	生徒の授業満足	授業実践[中高]	b)学園内附属学校教育研究会への	b)本校教職員9名が近畿大学附属広島高等学校・中学校東広島校での附属学校教育
導の徹	度を高める	b)学園内附属学校教育研究会	参加	研究会に参加した。初日は「大学入学共通テストへの対応と探究的な学びを目指
底	②校内の全ての教	の実施[中高]	c)生徒の満足度80%以上	す指導計画」について、情報・理科・地歴公民の3つの分科会に分かれ意見交換
	育活動は、生徒が	c)授業アンケートの実施と自	②a)通信環境があれば「いつでも・ど	が行われた。2日目には情報・理科・地歴公民の研究授業を見学し、「新課程にお
	自立した学習者	己分析[中高]	こでも」学習できることを周知	ける教科指導の現状と課題」について、各分科会で活発な議論が交わされた。
	およびグローバ	②a)iPad を利活用した e-ラーニ	し、指導教員は年間計画のとお	→ 次年度は豊岡校で開催予定
	ル人材となるべ	ングによる英語4技能の育	り指導	c)授業満足度(肯定的回答率)
	く、何が生徒のた	成[高校]	b)年間計画で校内実施	・90.7% [高校]
	めになるかを第	b)エンパワーメントプログラ	c1)アクティブラーニングによる課	*授業はわかり易く工夫がされている【90.2%】
	一に考えて実施	ムの実施[中高]	外授業実施	*授業・課題等で、iPad やプロジェクター等が積極的に使用されていた【84.5%】
	する	c)アクティブラーニングの研	c2)教科内での研究	*授業・課題等で、iPad やプロジェクター等の使用によって理解が深まった
	③ICTを利活用	究と採用[中高]	d)年間計画で実施	[81.3%]
	した教育力のス	d)年間計画に基づく TOEIC・	e)年間計画で実施	*授業内容から興味・関心がわき自ら学習しようとする気持ちが生じた【80.3%】
	キルアップを常	TOEIC Bridge[高校]および	③a)教職員による iPad 利活用内容	*教員は質問に的確に答えてくれる【92.4%】
	に目指し、未来を	TOEFL Primary[中学]の校	b)生徒の取組み	*授業の進み方や内容(難易)はちょうど良い【88.4%】
	視野に入れて教	内実施	c)年間計画による指導実践	*宿題(課題)の量や内容はちょうど良い【88%】
	育計画を立て、常	e)年間計画に基づく海外語学	④年間計画で実施 [高]	*総じて授業を真剣に受けている【94.4%】
	に新鮮で創造的	研修·海外留学·国内研修[中	⑤学習過程評価の定着および観点別	・88.2% [中学校]
	なアイデアを生	高]	評価の研究・実践	*授業を真剣に受けている。【95.8%】
	み出すために多	③a)授業・学校行事等高校生		*毎回の授業の目標が明確に伝わっている【90.8%】
	様な人材と協働	活に於ける様々な場面での		*声の大きさや話すスピードはちょうど良い【90.3%】
	して問題解決を	iPad・各種アプリの利活用		*授業はわかりやすくする工夫がされている【88.8%】
	はかる	および教員の創意工夫によ		*白板(スライドを含む)はわかりやすくする工夫がされている【88.3%】
	④社会貢献マイン	る授業の実践[中高]		*授業の進み方や内容(難易度)はちょうど良い【88.3%】
	ドを持ったグロ	b)生徒の自主性・積極性の育		*宿題(課題) の量や内容はちょうど良い【88.5%】
	ーバル人材を育	成 [中高]		*授業(実験・実技・実習など)によって興味・関心がわいた【81.0%】
	成するため、IB	c)情報ネット社会に於けるい		*授業内容に満足している【89.4%】
	ディプロマプロ	じめ・人権侵害に係る年間		
	グラムの導入年	計画による指導[中高]		②a)英語 5 技能の総合的な育成を目指している。Cambridge University Press より
	次にあたり教職	④ IB 教育室による計画の立案		Better Learning Partner の認定を受けていたが、継続して English Educational
	員全員の共通理	および担当教員による実施		Partner としての認定を受けることになった。これは過半数の英語科教員が
	解のもと取り組	[高]		CELT-S 資格を有し、コミュニカティヴ・ランゲージ・ティーチングの実践が認
	ţs	⑤学習過程評価の定着および観		められたこと、またその取り組みが継続的に持続していることの成果である。民
	⑤学習過程の評価	点別評価の研究・実践に取り		間の資格・検定試験の活用は継続する。
	重視に係る検討・	組む。		b)年間計画のとおり実施できた。プログラムの満足度は 100%であった
	宝宝,细去则亚年			、海 左 库 办 继 左 字 按 之 ,油 字

→次年度の継続実施を決定

実践・観点別評価

の研究・実践 c1)清教学園高等学校や愛徳学園高等学校など他校生徒との共同プロジェクトや IBDP プログラムのコア科目である CAS を参考にしたコミュニティーのニーズ に根差したプロジェクトを学年縦割りで実施するなど新たに他者と関わる課外 活動を重視→時代とニーズにマッチしたアクティブラーニングによる課外授業 を行うために、年度に応じて刷新を行う。 c2)教育改革推進室と各教科教育改革推進担当者が定期的にミーティングを開き、 アクティブラーニングを含めた授業展開とその評価法の研究を活発におこなっ た d)予定通り実施できた→次年度も継続して実施するが、近畿大学の BYOD 施策の ため受験環境の整備が困難になることが見込まれており、新たなテストのフレー ムワークを考察する必要がある。 e1)中高一貫コース対象オーストラリア姉妹校研修・オープンパース語学研修、ニ ュージーランド姉妹校研修、近畿大学入学予定者対象の 3 週間海外研修(個人単 位・各国)、オープン 3 週間アイルランド研修を予定通り実施した。生徒たちは 学びの成果を Vlog 等で残した。英語特化コースの中長期留学についても推奨実 施。本年度は1年進学コース・4Jプログレス3ヶ月留学をスタートさせ、全員 が大きな学びを得て無事帰国した。 e2-1)シンガポール英語研修(中学校課程・30 名)を実施【研修中のプログラム満足 度・非常に満足 75%・やや満足 25%】→ 次年度も継続して実施する e2-2)ブリティッシュ・ヒルズ研修(中学校課程) → 実施せず ③a1) Apple 社から本校が Apple Distinguished School として 5 度目の認定更新を受 け継続中である[2024-2027 2024.8 認定] [高校] a2)Apple Distinguished Educator に 6 名の教員が資格継続[高校] a3)本校教員および学外教育関係者を対象に教育を考えるイベントとして SET KINDAI を開催した。研修テーマ「生成 AI とこれからの教育」 Opening Session(趣旨・目的・問題提起), Session1・Session2(選択式の7つのワーク ショップ), Small Talk Session (意見交換・質疑応答) を実施。 Opening Session 肯定的評価 91.9%、 Session1 · Session2 肯定的評価 93.2%、 Small Talk Session 肯定的評価 91.6%[中高] b1)文化祭に於いて自分で考え何かを作り出し展示・発表する【利活用の自由度を付 与し、生徒もそれに応えている】 b2)文理コース2年生が「課題研究 ポスターセッション」を実施(12月)。1名が第 10回高校生国際シンポジウムに参加した。→ 次年度も継続実施する c)SNS 講習会を実施[中1]、インターネットモラル教室をオンライン実施[高1]し、 HR での指導 → 次年度も継続して実施する ④ DP ミーティングを年間で計画し、管理職と IB 教員の情報を交換できた。IB 教員 研修として IB 機構の公式ワークショップに7名が参加し、修了した。IB 教育の普 及のため、オンライン説明会を学校内外向けに年間で5回計画し、実施できた。 説明することで、より IB クラスへの理解を深めてもらえるように、IB 教員を中心 に担当者を毎回2名ずつ配置している。さらに、教員の国際的な視野を育成するた め、海外での広報活動やマルタ C A S 研修への引率など、IB 教員として成長する 機会を提供できた。それに伴い、IB 教育室や IB 教員への負担が激増している点が 課題である。[高] ⑤教育改革推進室を中心に授業展開と学習過程評価の定着および観点別評価の研究・ 実践に取り組んだ。

(4)		②下記の③④を年間計画[高校]	②・合格実績	②・難関国立10大学・国公立大学医学科・大阪公立大学合格者数計47名(含過年度
進路指	ける(難関)国公	③・年間計画に基づく指導[高		生)[京都大学4名・大阪大学9名・神戸大学7名・名古屋大学1名・大阪公立大
導の徹	立大学志望者へ	校	④・年間計画に基づく実施	学23名・富山大学医学科1名・香川大学医学科1名・和歌山県立医科大学医学
底	の進路指導の徹	a) 特進クラスの群・学年・教科		科1名]【対前年度1名減少】
<i>/</i>	底と合格支援を	担当者の連携と指導力の強		·国公立大学合格者数(含過年度生)計155名【対前年度8名増加】
[但し、	行う	化		③・年間計画に基づいて実施できた
①につ	③各群・各学年・各	b) 研修会や説明会を通じて生		a1) 各種学外入試研究会への参加と情報収集と情報共有
いては、	教科担当者との	徒の目標達成の支援		a2)予備校講師による国語科教員研修 [10月][30名参加]【実施後のアンケー
中期的	連携を強化する	c)過年度生への支援		トによる満足度100%(非常に満足80%・満足20%)】
目標の	④生徒が大学進学	④・教員が国公立大学進学情報、		a3)進路指導部による進路指導実践例報告会の実施[5月・12月]
(1)に	後も意欲的に学	在籍生徒の成績分析結果お		b1)大学入試情報分析オンライン説明会[6月](高3保護者対象)[約310名参加]
記載す	びを継続できる	よび志望状況に関する情報		b2)大学入試オンライン説明会[7月](高2保護者対象)[約650名参加]
る]	よう適切な学部・	を共有化した上での細かな		b2)大学入試動向説明会[11月](高3希望生徒対象)[200名参加]
0,	学科を主体的に	進路指導を実施[高校]		b3)大学入学共通テストリサーチ[1月](高3年希望生徒対象)[238名参加]
	選択させる	また、生徒自身が将来像を		c1) 過年度生について、各予備校との情報交換の徹底
		描き進学目標を定められる		c2) 過年度生への激励メッセージの記入[7月・12月]
		よう、講演会や進学イベン		④・年間計画に基づいて実施できた
		トを年間計画に基づき実施		・学内進路資料の作成
		[高校]		・ 教員対象各種学外研究会内容の周知
		EN INT		・高大接続およびキャリア教育各種体験型行事への生徒参加促進
				・『学びの記録』の生徒利活用促進
				・キャリアパスポートの作成、回収、学年間・校種間の引継ぎ等についての周知
				・進路志望調査の実施[4月](高3全生徒対象)
				・進路志望調査の実施[4・8月](高2全生徒対象)
				・進路志望調査の実施[6・10月](高1全生徒対象)
				・進路適性検査「学びみらい PASS」の実施[7月](高1特進クラス全生徒対象)
				・キャリアガイダンスの実施[9月](高1特進クラス全生徒対象)
				・夢ナビライブ(模擬講義や教授との進路相談など、進路を考えるオンライン
				イベント) [10月] (高1・2希望生徒対象) [70名参加]
				・進路適性検査結果に係る教員対象説明会の実施[9月]
				・一日看護師体験の実施[8月](高2・3生希望生徒対象) [16名参加]
				 ・高校生保育園職場体験の実施[7・8月](高1・2生希望生徒対象) [6名参加]
				・大阪大学説明会 [6月](高1・2希望生徒対象) [63名参加]
				【実施後のアンケートによる満足度96%(非常に満足65%・満足31%)】
				・神戸大学工学部出張授業 [7月](高2・3希望生徒対象) [50名参加]
				【実施後のアンケートによる満足度100%(非常に満足62%・満足38%)】
				・神戸大学国際人間学部出張授業 [7月](高2・3希望生徒対象) [30名参加]
				【実施後のアンケートによる満足度100%(非常に満足89%・満足11%)】
(F)	①車架江梨四十	①.ICT 拟去但这个勒供之口心	①. 沈管本の事業送利由土土株の田	①. △和《左阵》级学机势去还剩次人由十举场以上点上。 少 类 1. 典 ツ ***** ****************************
(5)	①事業活動収支	①・ICT 教育環境の整備を引き	①・決算での事業活動収支差額の黒	①・令和6年度の経常的教育活動資金収支差額は赤字となった。光熱水費が1900万円以上増加し、奈亦霖沿供用北工東、伝想北、水其船用北、京笠学校用株は3人
健全な	差額の安定的	続き行い、全生徒が問題な	字化	円以上増加し、受変電設備更改工事・仮想サーバ基盤更改・高等学校用特注シュ
経営状	な黒字化	くタブレット端末を利活用	②a)入学試験に於ける実質競争倍率	ーズロッカー更改・中学校昇降機改修工事・生駒合宿所エアコン更改工事等での
況の維	②受験者数の確保	できるようにし、新たな整	b)募集人員の充足	支出が増加
持	と定員の充足	備のために、従来からの情		②a)入学試験に於ける実質競争倍率
		報系保守・運用管理費用の		高等学校 1.08 倍
		削減を行う[中高]		中学校 前期入試 1.49 倍・後期入試 1.73 倍
		②・安定的な収入を確保するた		b)募集人員を充足した[中高]
		め、生徒募集を強化し、受験		
		者の確保、定員の充足に努		
		める[中高]		